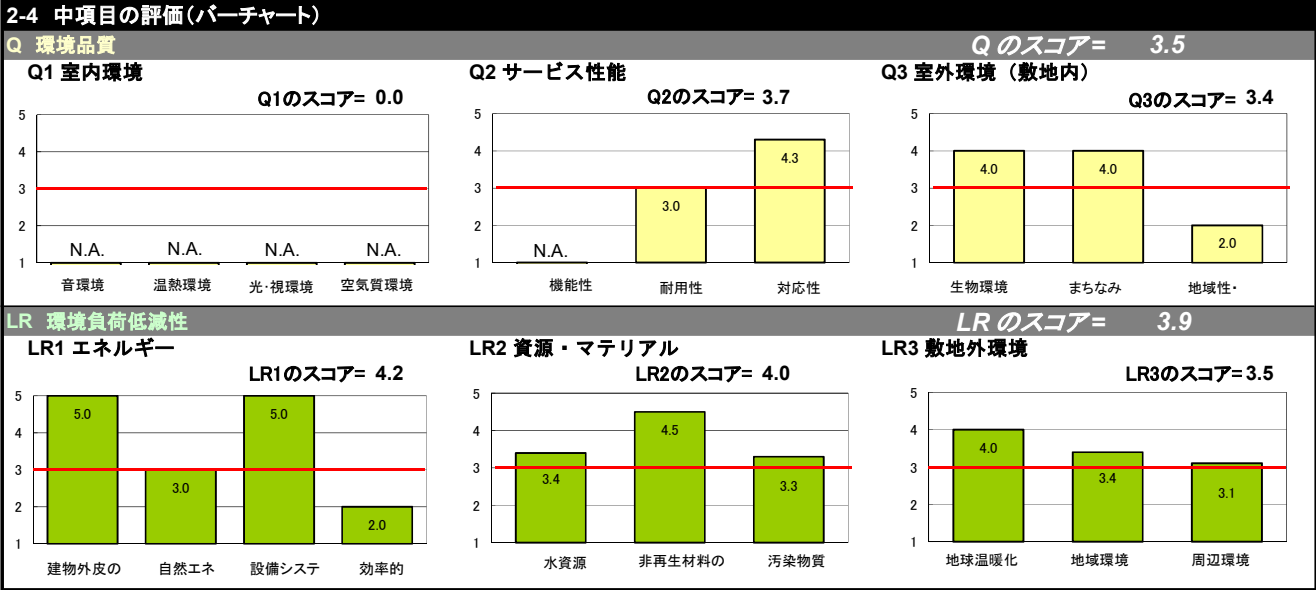
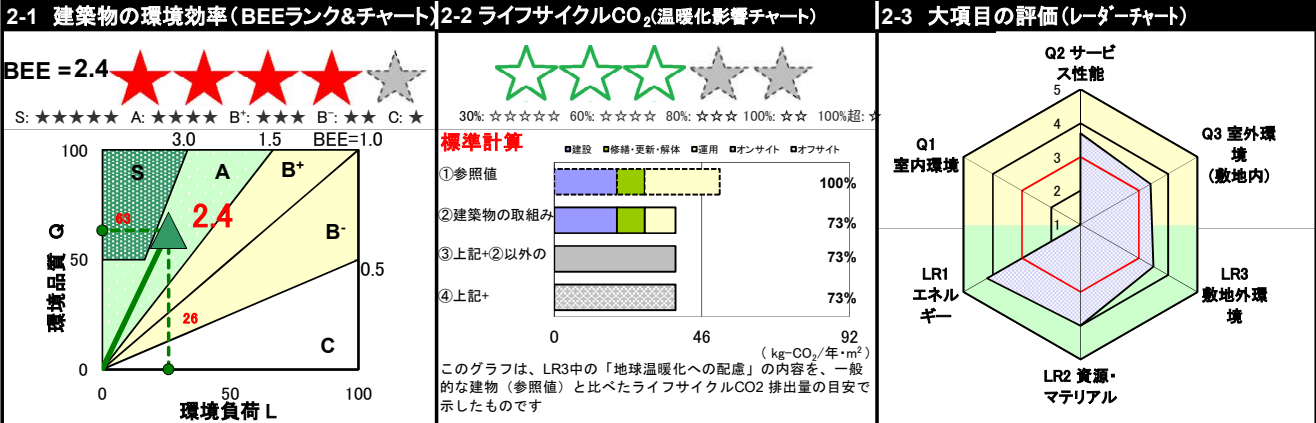


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	CBRE IM 野田	階数	地上5F
建設地	千葉県野田市	構造	S造
用途地域	工業地域、法22条区域	平均居住人員	300 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年8月 予定	評価の実施日	2024年5月7日
敷地面積	50,088 m ²	作成者	大豊建設株式会社
建築面積	24,895 m ²	確認日	2024年5月7日
延床面積	118,083 m ²	確認者	大豊建設株式会社



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
千葉県野田市に計画された倉庫業を営む倉庫である。 ・計画敷地の樹木や水辺を保存することに加え、周辺の生物環境に配慮した緑化計画を行った。 ・壁長さ比率や天井高、荷重に余裕を持たせゆとりのある空間を計画した。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・評価対象外	・補修必要間隔の長い外壁・内装仕上げを採用し、ライフサイクル計画の長寿命化を図った。 ・壁長さ比率や天井高、荷重に余裕を持たせゆとりのある空間とした。	・敷地内の既存樹木・水辺を保存する計画とした。 ・周辺環境に配慮し、敷地外周部に積極的に植栽を設けた。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・LED照明器具の採用により、エネルギー削減を図った。	・自動水栓や省水型機器を用いた。 ・デッキプレート等、材料使用量の削減手法を取り入れた。 ・エコマークやグリーン購入法対象品などリサイクル材を採用し、資源保護に努めた。	・燃焼機器は使用せず、大気汚染防止に配慮している。 ・車の出入り口を複数確保し、自動車の渋滞緩和に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
CBRE IM 野田

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								3.5	
Q1 室内環境									
1 音環境				-	-	-	-		
1.1 室内騒音レベル				-	-	-	-		
1.2 遮音				-	-	-	-		
1 開口部遮音性能				-	-	-	-		
2 界壁遮音性能				-	-	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-		
1.3 吸音				-	-	-	-		
2 温熱環境				-	-	-	-		
2.1 室温制御				-	-	-	-		
1 室温				-	-	-	-		
2 外皮性能				-	-	-	-		
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-		
2.2 湿度制御				-	-	-	-		
2.3 空調方式				-	-	-	-		
3 光・視環境				-	-	-	-		
3.1 昼光利用				-	-	-	-		
1 昼光率				-	-	-	-		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備				-	-	-	-		
3.2 グレア対策				-	-	-	-		
1 昼光制御				-	-	-	-		
3.3 照度				-	-	-	-		
3.4 照明制御				-	-	-	-		
4 空気質環境				-	-	-	-		
4.1 発生源対策				-	-	-	-		
1 化学汚染物質				-	-	-	-		
4.2 換気				-	-	-	-		
1 換気量				-	-	-	-		
2 自然換気性能				-	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮				-	-	-	-		
4.3 運用管理				-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御				-	-	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.43	-	-	3.7	
1 機能性				-	-	-	-		
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-		
1 広さ・収納性				-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-		
3 バリアフリー計画				-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-		
1 広さ感・景観				-	-	-	-		
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-		
3 内装計画				-	-	-	-		
1.3 維持管理				-	-	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				-	-	-	-		
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.0	0.50	-	-	3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		浸透性表面強化剤		5.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		少なくとも3種のうち2種以上はC以上を使用している。		4.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		ネットワーク機器用に無停電装置が設備されている。		4.0	0.20	-	-		

3	対応性・更新性			4.3	0.50	-	-	4.3
	3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	階高は3.9m以上である。	5.0	0.60	-	-	
	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率は0.1以下である。	5.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり		床荷重だけでなく架構・地震力についても割増されている。	5.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	仕上材を傷めず電気配線の更新・修繕が可能である。	5.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	仕上材を傷めず通信配線の更新・修繕が可能である。	5.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.57	-	-	3.4
1	生物環境の保全と創出		緑の質を確保しながら緑化を行っている。	4.0	0.30	-	-	4.0
2	まちなみ・景観への配慮		周辺のまちなみへの調和を行っている。	4.0	0.40	-	-	4.0
3	地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	—	2.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	—	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性								3.9
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	4.2
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.75	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		—	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		BEI=0.41	5.0	0.50	-	-	5.0
4	効率的運用			2.0	0.20	-	-	2.0
	集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	1.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	4.0
1	水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1	節水	節水器具を過半数以上、省水型機器も採用している。	4.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
	非再生性資源の使用量削減			4.5	0.60	-	-	4.5
2	2.1	材料使用量の削減	フラットデッキの採用等。	5.0	0.11	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.22	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	高炉セメントB種を用いている。	5.0	0.22	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	リサイクル材を3品目用いている。	5.0	0.22	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	-	-	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	LGSを採用し、躯体と仕上材が容易に分別可能である。	5.0	0.22	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	—	3.0	0.30	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	
	1	消火剤	—	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWP=10以下の断熱材を使用している。	4.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	—	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.5
1	地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2の排出率に配慮している。	4.0	0.33	-	-	4.0
2	地域環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
	2.1	大気汚染防止	燃焼機器を使用していない。	5.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	蓄雨高100mm以上を敷地内で確保している。	5.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	—	2.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	—	1.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	—	3.0	1.00	-	-	
	2	振動	—	-	-	-	-	
	3	悪臭	—	-	-	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	風害対策に対する要請がない。	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	—	-	-	-	-	
	3	日照阻害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制		3.7	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	LEDの採用等、外に漏れる光への対策を行っている。	4.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

CBRE IM 野田

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	3.0	-	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	10.0	-	2.0	2.0	2.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	4.0	-	2.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	4.0	-	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	6.0	-	-	-	6.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0	-	1.0	-	-	3.0	1.0	-	-	2.0	1.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	1.0	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)	-		
U値(W/m ² K)	窓システム	屋根	外壁	床	
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	η AC	η AH	
屋光率	-				
自然換気有効開口面積率	-				

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	-	/人	病床	-	/床	シングル	-	ツイン	-
--------	---	----	----	---	----	------	---	-----	---

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量	-	VA/m ²			
---------	---	-------------------	--	--	--

1.2.1 広さ感・景観

天井高	-	m			
-----	---	---	--	--	--

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース	-	レストスペース	-		
------------	---	---------	---	--	--

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数	-	年			
--------	---	---	--	--	--

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔	-	年			
--------	---	---	--	--	--

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔	-	20 年			
--------	---	------	--	--	--

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔	-	年			
--------	---	---	--	--	--

3.1.1 階高のゆとり

階高	-	5.94 m			
----	---	--------	--	--	--

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率	-	6.0%			
-------	---	------	--	--	--

3.2 荷重のゆとり

床荷重	-	15000 N/m ²			
-----	---	------------------------	--	--	--

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数	20%	建物緑化指数	-		
--------	-----	--------	---	--	--

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率	50%	水平投影面積率	-	地表面对策面積率	16%	舗装面積率	-
-----	-----	---------	---	----------	-----	-------	---

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI _m	0.75	断熱等性能等級	対象外 相当		
----------------------	------	---------	--------	--	--

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量	-	MJ/年m ²	採光を満たす教室数	-	採光を満たす住戸数	-
--------------	---	--------------------	-----------	---	-----------	---

通風を満たす教室数	-	通風を満たす住戸数	-		
-----------	---	-----------	---	--	--

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI _m	非住宅	0.41	住宅	-	太陽光	-	太陽熱等	-	蓄電池	-
----------------------	-----	------	----	---	-----	---	------	---	-----	---

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率	-				
-------	---	--	--	--	--

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目	タイルカーペット	エコマーク商品	塩ビシート、再生プラスチック等	特定品目等	-
--------	----------	---------	-----------------	-------	---

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率	-				
------	---	--	--	--	--

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP)	-	地球温暖化係数(GWP)	-		
---------------	---	--------------	---	--	--

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	3		
---------------	---	--------------	---	--	--

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP)	-	地球温暖化係数(GWP)	-		
---------------	---	--------------	---	--	--

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	-	隣棟間隔指標Rw	2.51						
地表面对策面積率	17.8%	屋根面对策面積率	-	外壁面对策面積率	-				
見付面積Sb	-	卓越風向と直交する最大敷地幅Ws	-	m	基準高さHb	-	m		
緑地	4,355㎡	水面	1,192㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡	再帰性反射対策面	㎡